

村落社会と農村芝居

京都府福知山市北部地域を中心に

斉藤利彦

Rural Community and Rural Play : Focusing on the Northern Area of Fukuchiyama City in Kyoto

SAITO Toshiko

はじめに

- ① 上野条御勝八幡宮と紫宸殿田楽
 - ② 上野条と村芝居
 - ③ 行積と村芝居
 - ④ 天座の村芝居
- おわりに

【論文要旨】

江戸時代、歌舞伎芝居は京、大坂、江戸といった三都や城下町だけではなく、各地の村々においても上演され、人々に享受されていた。いわゆる「村芝居」である。村芝居とは文字通り「村で行われた芝居」のことで、基本的に二通りに大別する。ひとつは「地芝居」「地狂言」などと称される、素人の村人がみずから役者として演じるものである。もうひとつが「買芝居」である。これは別に「請芝居」「雇芝居」などとも称せられ、地方を巡業する専業役者の一座を村が買って上演する芝居のことであった。両者とも多くが歌舞伎芝居であったが、人形芝居も含まれる。

村芝居に関する研究は、戦前よりなされたが、注目されるにはいならず、本格的な検討は戦後である。そのなかでもっとも重要な研究成果は、角田一郎氏が昭和三〇年代（一九五五～一九六四）から四〇年代（一九六五～一九七四）にかけて、村芝居の

全国的な調査を実施し、まとめた「農村舞台の総合的研究―歌舞伎・人形芝居を中心に―」（桜楓社、一九七二）である。

角田氏の成果は、全国の農村歌舞伎の芝居小屋を網羅しているが、京都府下の村芝居については十分に調査・研究はなされていない。このうち、府下の福知山市内域においては、人形芝居についての考察があるのみで、本格的な研究はない。

そこで本稿は、従来ほとんど言及されてこなかった京都府下の村芝居と農村舞台について、特に福知山市内域の村芝居を事例とし、なかでも三岳山信仰と関連の深い上野条・行積・天座地域の村芝居をとりあげ検討したい。これらの村々は、中世においては佐々木庄下山保に属し、御勝八幡宮大祭とも関係はすこぶる深い。

【キーワード】農村歌舞伎、村芝居、紫宸殿田楽、三岳山、天座